

整理番号	コンクリートクリーン 20L/cs	作成日	2014年10月29日
4365-01	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年8月1日

Ver. 11.08

安全データシート (SDS)

1. 製品及び会社情報

製品名	コンクリートクリーン 20L/cs
製品コード	4365
会社名	横浜油脂工業株式会社
住所	横浜市西区南浅間町 1-1
担当部門	技術開発部
担当者	溝口 康介
電話番号	045-311-4701
FAX番号	0463-89-1330
緊急連絡の電話番号	045-311-4704
奨励用途及び使用上の制限	コンクリート・モルタルの除去
作成日	2014年10月29日
改正日	2016年8月1日
整理番号	4365-01

2. 危険有害性の要約

GHS分類

金属腐食性物質	区分 1
皮膚腐食性／刺激性	区分 1
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分 1

※記載のないものは区分外、分類対象外または分類出来ない

GHSラベル要素

シンボル



注意喚起語

危険

危険有害性情報

金属腐食のおそれ
 重篤な皮膚の薬傷・目の損傷
 重篤な眼の損傷

3. 組成、成分情報

化学物質 ・混合物の区別
 ・混合物

成分名／化学名	含有量 (wt%)	CAS No.	化審法
有機酸	10~40	非公開	非公開
増粘剤	1未満	非公開	非公開
水	残量	7732-18-5	—

整理番号	コンクリートクリーン 20L/cs	作成日	2014年10月29日
4365-01	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年8月1日

Ver. 11.08

PRTR法報告物質

非該当 該当物質は含有しない。

毒物及び劇物取締法

非該当 該当物質は含有しない

労働安全衛生法

通知物質：法第57条の2、施行令18条の2別表第9 名称等を通知すべき有害物質

非該当 該当物質を指定量以上含有しない。

有機溶剤中毒予防規則

非該当 該当物質は含有しない。

4. 応急処置

大量に吸入した場合

- ・吸入をして気分の悪くなった場合は、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・気分の戻らない時は、医師の診断を受けること。
- ・呼吸していて嘔吐がある場合は頭を横向きにする。
- ・呼吸が弱い場合は人工呼吸や酸素吸入を行う。
- ・吸入の影響が遅れて現れることがある。
- ・上記症状が出た場合、直ちに医師の診断を受けること。

皮膚に付着した場合

- ・直ちに水で洗い流し、石鹼で液が付着した部分をよく洗うこと。
- ・汚染した衣類を再使用する場合は洗濯してから使用すること。
- ・直ちに、汚染された衣類をすべて取り除くこと。皮膚を流水で洗うこと。
- ・水で洗浄したのちに衣類が皮膚に張りついている場合は、無理にはがしてはならない。
- ・洗浄を始めるのが遅れたり、不十分だと皮膚障害を生ずるおそれがある。
- ・直ちに医師の診断を受けること。

目に入った場合

- ・清浄な水で最低15分間目を洗浄する。洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水がよく行きわたるように洗浄する。
- ・コンタクトレンズを使用している場合は、固着していないかぎり、取り除いて洗浄を続ける。
- ・洗浄後、医師の診断を受けること。
- ・激しい痛みがある場合は、直ちに医師の診断を受けること。
- ・洗浄を始めるのが遅れたり、不十分であると不可逆的な眼の障害を生ずるおそれがある。

飲み込んだ場合

- ・直ちに水で口の中を洗浄する。

整理番号	コンクリートクリーン 20L/cs	作成日	2014年10月29日
4365-01	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年8月1日

Ver. 11.08

- ・直ちに医師の診断を受けること。
- ・無理に吐かせないこと。
- ・腐食性の製品なので、吐き出させるとかえって危険が増す。直ちに医療措置を受ける手配をする。
- ・子供などが飲み込んだ懸念がある場合、直ちに医師の診断を受けること。
- ・必要に応じて、人工呼吸や酸素吸入を行う。

最も重要な兆候及び症状

- ・特になし

応急措置をする者の保護

- ・特になし

医師に対する特別注意事項

- ・特になし

5. 火災時の措置

消火剤

- ・この製品自体は、燃焼しない。

特有の消火方法

- ・消火作業は、可能な限り風上から行なう。
- ・関係者以外は安全な場所に退去させる。
- ・周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。
- ・火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。
- ・周囲の設備などの輻射熱による温度上昇を防止するため、水スプレーにより周辺を冷却する。
- ・消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行う。

消火を行う者の保護

- ・消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク)を着用する。
- ・消火活動は風上から行い、有毒なガスの吸入を避ける。状況に応じて呼吸保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- ・屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。
- ・漏出時の処理を行う際には、必ずゴム手袋、保護眼鏡、保護衣等を着用すること。
- ・漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立入を禁止する
- ・作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵、ガスを吸入しないようにする。
- ・風上から作業し、風下の人を退避させる。
- ・着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。
- ・こぼれた場所はすべりやすいために注意する。

整理番号	コンクリートクリーン 20L/cs	作成日	2014年10月29日
4365-01	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年8月1日

Ver. 11.08

環境に対する注意事項

- ・流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

回収、中和

- ・少量の場合は、吸着剤(おがくず・土・砂・ウエス等)で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等でよく拭き取り、密閉できる空容器に回収する。
- ・大量の場合には、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。
- ・本製品は強酸なので、盛り土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理するか、または徐々に注水してある程度希釈した後、必要があれば消石灰、ソーダ灰等で中和する。下水溝、表流水、地下水に流してはいけない。
- ・回収後の少量の残留分は土砂またはおがくず等に吸収させる。
- ・付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置する。

二次災害の防止法

- ・漏出時は事故の未然防止および拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

- ・製品記載の使用上の注意を良く読み、用途以外に使用しないこと。
- ・酸性なので、アルカリ性の製品との接触を避ける。
- ・粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
- ・他の容器に移し替えしないこと。

保管

安全な保管条件

- ・製品記載の保管条件を読み、適切に保管すること。
- ・容器を密栓すること。
- ・日光から遮断し、40℃を超える温度に暴露しないこと。
- ・耐腐食性あるいは耐腐食性内張りのある容器に保管すること。
- ・施錠して保管すること。
- ・アルカリと一緒に保管してはならない。

安全な容器包装材料

- ・軟鋼、銅、アルミニウム、亜鉛には腐食性があるため、ステンレスまたはポリエチレン容器に保管する。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策

- ・蒸気または煙やミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。
- ・屋内で使用する場合は局所排気装置を設置する。

記載の無いもの、また「-」は、知見なし、あるいはデータなし

整理番号	コンクリートクリーン 20L/cs	作成日	2014年10月29日
4365-01	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年8月1日

Ver. 11.08

成分名／化学名	管理濃度	許容濃度
有機酸	—	—
増粘剤	—	OSHA PEL 15mg/m ³ (total dust) 8-hr TWA、 5mg/m ³ (respirable) 8-hr TWA
水	—	—

保護具

呼吸器の保護具

- ・保護マスクを着用する。必要に応じて防塵マスク、防毒マスク、有機溶剤用の防毒マスク等を着用する。

手の保護具

- ・保護手袋、必要に応じて耐溶剤性手袋、ビニール手袋等を着用する。

目の保護具

- ・保護眼鏡(普通眼鏡型)、必要に応じて、ゴーグル型、保護面等を着用する。

皮膚及び身体の保護具

- ・保護衣、保護前掛け等を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

外観	: 白濁液体
臭い	: 原料臭
臭いのしきい値	: データなし
pH	: 1.0
融点/凝固点	: データなし
沸点、初留点と沸騰範囲	: データなし
引火点	: なし
自然発火温度(発火点)	: データなし
燃焼性(固体、気体)	: データなし
燃焼又は爆発範囲下限、上限	: データなし
蒸気圧	: データなし
蒸気密度	: データなし
蒸発速度	: データなし
比重	: 1.13
溶解性	: 水に溶解
オクタノール/水分配係数	: データなし
分解温度	: データなし
粘度(粘性率)	: データなし
その他のデータ	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性

化学的安定性

- ・通常の取扱いにおいては安定である。

整理番号	コンクリートクリーン 20L/cs	作成日	2014年10月29日
4365-01	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年8月1日

Ver. 11.08

危険有害反応性の可能性

- ・ 特になし

避けるべき条件

- ・ 特になし

混触危険性物質

- ・ アルカリ性物質（酸性物質のため、アルカリ性物質との接触を避けること。）

危険有害な分解生成物

- ・ 特になし

その他

- ・ 特になし

1 1. 有害性情報

個々の成分の有害性情報：記載の無いものは、GHS分類でカットオフ値以下であるもの、知見なし、あるいはデータなしの成分

・ 有機酸

《急性毒性》

経口：ラットLD50：649mg/kg

経皮：2000mg/kg＞ウサギLD50＞1000mg/kg

《皮膚腐食性／刺激性》

マウス：腐食性

《眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性》

ウサギ：回復不可能な損傷（OECDテストガイドライン405）

《呼吸器感作性又は皮膚感作性》

Buehler法 モルモット：感作性なし

《生殖細胞変異原性》

細菌類に対して変異原性を示さなかった。哺乳類を用いた試験では、変異原性を示さなかった。

《生殖毒性》

動物実験では、催奇形性を示さなかった。

・ 増粘剤

《急性毒性》

経口：LD50 5000mg/kg以上（ラット、経口）

《皮膚腐食性／刺激性》

皮膚刺激性、目粘膜刺激性ともに認められない。（ウサギ）

《呼吸器感作性又は皮膚感作性》

呼吸器感作性：

皮膚感作性アレルギーは認められない。（モルモット、皮膚）

《発がん性》

NTP、IARCの癌原物質として分類されていない。

《生殖毒性》

一日に500mg/kg以下で3世代変化を認めず。（ラット）

整理番号	コンクリートクリーン 20L/cs	作成日	2014年10月29日
4365-01	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年8月1日

Ver. 11.08

1 2. 環境影響情報

個々の成分の有害性情報：記載の無いものは、GHS分類でカットオフ値以下であるもの、知見なし、あるいはデータなしの成分

・ 有機酸

魚類に対する毒性:

LC50(半数致死濃度) (96 h) 73 mg/l, ニジマス(学名:Oncorhynchus mykiss) (OECDテストガイドライン 203, 止水式)

毒性作用の詳細は、名目濃度に関連性あり。

水生無脊椎動物:EC50 (48 h) 10 - 100 mg/l

水生植物:EC50 (72 h) 12 - 24 mg/l (成長率), 緑藻(学名:Selenastrum capricornutum) (OECDテストガイドライン201)

毒性作用の詳細は、名目濃度に関連性あり。

水生生物に対する毒性の評価:水生生物に対し急性の有害性がある。廃水処理施設に低濃度で適切に流入すれば、活性汚泥の分解

活性を阻害しない。

残留性及び分解性

除去情報:

> 70 % DOC減少 (OECDテストガイドライン301A(新試験法)) OECD基準によると、本製品は易生分解性である。

生体蓄積性:n-オクタノール/水の分配係数(log Pow)より、生体への濃縮性はないと考えられる。

・ 増粘剤

《水生環境有害性》(急性)

LC50 490mg/L(ニジマス、96時間) LC50 500000ppm以上(アメエビ、96時間) EC50 980mg/L(ミジンコ、48時間)

《水性環境有害性》(慢性)

生分解性である

オゾン層への有害性： データなし

1 3. 廃棄上の注意

- ・ 内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

1 4. 輸送上の注意

国際規制：

国連分類

クラス8 腐食性物質

国連番号

3265 腐食性物質 (有機物) (液体) (酸性)、n. o. s.

容器等級： I

海洋汚染物質： 非該当

国内規制：

容器イエローラベル

153 毒性物質及び/又は腐食性物質 (可燃性)

整理番号	コンクリートクリーン 20L/cs	作成日	2014年10月29日
4365-01	横浜油脂工業株式会社	改定日	2016年8月1日

Ver. 11.08

輸送の特定の安全対策及び条件

- ・ 容器の破損、漏れがないことをたしかめる。
- ・ 荷くずれ防止を確実にを行う。
- ・ 該当法令に従い、包装、表示、輸送を行う。
- ・ 直射日光を避ける。
- ・ 水漏れ厳禁。
- ・ 横積み厳禁。
- ・ 夏場の輸送時においては、熱い鉄板、地面等の上に直接置かないこと。
- ・ 輸送容器は衝撃を与えないように、ていねいに取扱う。転倒したり、激突させたりしない。

15. 適用法令

火薬類取締法：

対象外

高圧ガス保安法：

対象外

消防法： () 内は、指定数量

非危険物(消防法上の非危険物)

不燃物である

毒物及び劇物取締法(毒劇物取締法)：

非該当(該当物質は含有しない、詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

労働安全衛生法：

表示対象物質を含有しない。(詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

労働安全衛生法(有機溶剤中毒予防規則)：

非該当 該当成分を含有しない。(詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

労働安全衛生法(危険物)：

非該当

特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法 (PRTR法)：

非該当 該当物質は含有しない。(詳細は 3. 組成、成分情報を参照)

16. その他の情報(参考文献等)

GHSに基づく化学物質等の分類方法 JIS Z7252:2009

GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法-ラベル、作業場内の表示及び安全データシート(SDS) JIS Z7253:2012

GHS分類結果データベース (独立行政法人製品評価技術基盤機構ホームページ)

中央労働災害防止協会安全衛生情報センターホームページ

JACA(日本オートケミカル工業会)編集:化学物質管理データベース

オートケミカル製品のための製品安全データシート作成指針改訂版 (日本オートケミカル工業会)

危険物船舶運送及び貯蔵規則 (海文堂)

※注意

安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として、取り扱う事業者提供されるものです。取り扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取り扱いなどの実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。